



道南の一部では雪がないようですが、他の地区はまだ雪が残っていますよね。しかし、3月の温かさとともに急速に雪どけも進み、外でボールを蹴られるのももう少しではないでしょうか。待ち遠しい毎日です。

さて、更新講習会が開催されています。競技規則やその適用に関わる手順の確認、そしてトピックスがあったかと思えます。大切なことだと考えて確認していますが、すべてはこのサッカーという「競技規則の精神」に則しているということで、「競技規則の精神」について確認しておこうと思えます。「競技規則の精神」は安全・公平・喜びです。特に、安全と公平について、下記を参考に考えてみてください。

安全～自分も他人もけがをしないで安全にプレーできること。そのために自分たちで決めた競技規則を守ってプレーすることです。お互い同じ「サッカー」を楽しむ者として、お互いのプレーを尊重しながらプレーすることが求められます。そのような意味からも、ボールをプレーする場面でもボールを奪い合う場面でも、その方法は安全であること。すなわち相手の状況も見ながらプレーすることです。

公平～誰にでもどちらのチームにも同じように認められることです。試合時間は前半と後半が同じ時間。前半と後半で攻撃するゴールが変わる。決められた競技規則に対してはどちらのチームも守るわけですが、そこに違反したら、すなわちその一線を越えたら違反したと判断されます。その判断を任された審判員は、どちらにも染まらないという意味からも黒色の審判服を着用しました。

**\*\*予告**

**2016の改正** ～最近の現況とともに、サッカー見識者からの意見も交え  
リニューアルしたことから、全面的に変わるようです

□ 競技規則の改正

- ・ 競技規則と解釈を組み合わせた構成にし、用語の整理をした
- ・ キックオフについて、どの方向に蹴っても良くなるようです
- ・ 警告や退場に値する反則を受け怪我をして負傷した競技者については、フィールド内で短時間の医療的処置を受けられ、プレー可能と判断されれば、フィールドから去ることなくプレーを続けられるようです。

- 三重罰 (PK □ 退場 □ 次試合出場停止) の解消・・・2年間の試行期間とし実行
- ある条件の下では、退場としていたものを警告とする

③ 競技者の数・・・4人目の交代 6月頃に、正式に連絡します

◆ 今後の予定

- ・ 4月3日 (日) 地区審判長会議
- ・ 4月16/17日 第2回北海道審判トレセン・強化指定審判員研修会 苫小牧  
(トレセン活動には、興味のある方の参加も大歓迎です)



**2016年度 U-22 審判員 春季研修会に参加して**

旭川地区サッカー協会 森内 真司

私は 3 月 7 日から 4 日間、日本サッカー協会が主催する U-22 審判員春季研修会に参加しました。北海道という地理的な制約から、他地域の審判員とは普段なかなか顔を合わすことはありませんが、この研修会では 4 日間を同年代の審判員 17 人と共に過ごすことで、普段の審判活動とはまた違った体験ができました。2 年連続の参加でしたが、今年は昨年よりも雨や風の強い日が多く凍えるような寒さの中で試合を担当しました。

研修会は、茨城県鹿嶋市の鹿島ハイツスポーツプラザで開催されている TRAUM CUP 2016 in SPRING の試合をお借りして、各審判員が 1 日 1 つの試合を担当します。そもそも TRAUM CUP とは、大学体育会サッカー部の B チーム相当が第 1～第 4 グループに分かれて予選リーグを戦い、3 日目以降は予選リーグの結果を基に決勝トーナメントと順位別リーグに分かれてたくさんの試合を経験することによって選手として「さらなる飛躍のきっかけ」になってほしいという思いのもと企画されたものです。今年は順天堂大や流通経済大、慶応義塾大、IPU など名立たる 16 チームが集まりました。

今研修会は「2016 年度の目標を定める」をテーマに短期～長期に至るまでの目標設定ができるよう試合担当・分析・講義を行いました。私は 4 日間の研修で主審 3 試合、副審 1 試合を担当し、今の自分にできていることは何か、反対に足りないものは何かを発見するきっかけになりました。黛インストラクターからはもっとイメージネーション（想像力）を働かせるよう指導を受けました。大きな目標を立てるとすれば、それを達成するために計画を作り、実行しなければなりません。その意欲となるものがイメージネーションです。想像力を働かせることで目標はより近づくものだと指導を受けました。この他に私たちの年代に足りない 3 つのことを改善するよう指導を受けました。

1 つ目は、判断についてです。ただなんとなくモヤモヤしているものを「形式知化」して表現できるようになること。判定として置き換えれば「Consideration points」を正しく整理して判断が下せるよう訓練することが私にはまだまだ必要だと感じました。

2 つ目は、フィジカル面です。一部の審判員を除いて、走力や体力がまだまだ足りないと指摘されました。現代サッカーはタテのスループスから決定機につながる場面が多々ありますが、そのような場面に対応できない審判員は「いない」と断言されました。体力面についてもまだまだ改善する余地があります。上級審判員を目指すためにも克服しなければならない課題です。

3 つ目は、「俯瞰的視野」や「大局観」についてです。これらは、全体を把握・未来を予測した判断をすることです。ゲーム展開の予測や位置取りに苦戦することがあります。これらを身につけて課題を克服していきたいと考えています。

4 日間の研修会はあっという間に過ぎていきましたが、とても貴重な経験となりました。まだまだ未熟者ではありますが、これからは 2016 年度の目標をしっかりと定めたいので、研修会で学んだことを北海道での活動に生かしていきます。